



活動報告

宮崎県都農町で中学生がまちづくりに参画する様子を見てきました

9/17～20の4日間、2月に見学した宮崎県都農町の株式会社イツノマを再訪してきました。
(前回の訪問内容については景観だより第14号[2024年4月発行]をご覧ください)

今回は9/18に開催された「みちくさ市」の様子を見てきました。これは現在の都農中学校3年生の生徒たちが、昨年度「つの未来学(地域課題の探究学習)」で立案した商店街を活性化するためのイベントプランを、約半年の準備期間を経て実現させたというものでした。

中学生たちは「カフェ/古着屋/Dr.YATAI/巨大すごろく/みたらし団子」の5つの企画を実施しました。それぞれの班ではリーダーを「社長」と命名し、あらかじめ貸与された資金をもとに事業計画書を作成、地域の方々への協力依頼や準備なども可能な限り自分たちでやるなど、これからの地方で生き残るために必要な「起業力」を実践的に学びながらイベントの準備にあたりました。

イベントの集客に当たっては平日の水曜日のイベントということで、ターゲットを地元の高齢者と役場や病院といった施設で働く職員に絞り、自分たちで営業へー

そして迎えた当日は35℃の炎天下の中で実際にイベントを通じて「にぎわいを創り、お金を稼ぐ」ことを実践しました。平日日中のわずか5時間のイベントで約300人のお客さんを集客、約23万円の売上を計上する大成功でした。

中学生たちに感想を聞いてみると「こんなにお客さんが来てくれてうれしい」「自たちで商店街を盛り上げることができて楽しい」の声。地元に戻ってくる子どもたちが少ないことに危機感をもった都農町で地域課題をテーマにした究極の「まちづくり教育×キャリア教育」を学ぶことができました。



「みちくさ市」の準備の様子



盛り上がるイベントの様子



←株式会社イツノマの
HPはこちら



←みちくさ市の様子はこちら
(YouTube)

くっちゃんの小話



魅力ある街なみづくりに向けて ～新店舗・ツルハドラッグの看板～

俱知安町景観計画では、街なみや自然景観を活かすよう「屋外広告物」設置の基本方針を定め、新たに看板などを設置する際には、町と協議していただくようお願いしています。11月7日に「ツルハドラッグ俱知安駅前通店」がオープンしましたが、ほかの店舗と雰囲気異なることに気づきましたか？



通常の外観(他店舗の例)



鮮やかさを抑えたデザイン



通常の入ロドア



こげ茶はレア!

街なみを意識したデザインにより町の魅力が高まり、「町の景観に配慮した」というお店のブランドイメージも向上します。屋外広告物を設置予定の方は、事前に景観室へご相談ください。



お問い合わせ/発行者 俱知安町まちづくり新幹線課 景観室 景観係
TEL 0136-56-8012 FAX 0136-23-2044 E-mail:keikan@town.kutchan.lg.jp

景観フォトコンテスト「わたしたちが思うくっちゃんの景観」開催



俱知安町では、景観計画の行動指針「先人から受け継いだこの土地を大切に、愛着と誇りを育み、次の世代につなげる」に向けて、みなさんにもっと気軽に景観まちづくり活動に参加していただきたいと考えています。そこで、景観について考えるきっかけになって欲しい!と、景観フォトコンテストを企画しました。

羊蹄山や尻別川の景色だけではなく、農作業する人や公園で遊ぶ子どもたちなど、日々生活するわたしたちがつくりだす景観も含めた写真を募集します。日ごろ「景観」について深く考える機会は少ないと思いますが、シャッターを通して改めて「俱知安の街」や「俱知安の景観」について考えてみませんか？



景観まちづくり推進員
濱崎

募集期間:2024年12月1日(日)～2025年1月31日(金)

(賞の発表は次号景観だより(2025年4月発行)を予定しています)

詳しい募集要項や応募に関する注意事項などは右の二次元コードもしくは俱知安町のHPからご確認ください。



住民主体の景観まちづくりが盛んなまち「なかしべつ」に行ってきました

7/9~10の2日間、まちづくり新幹線課景観室の4名で中標津町を訪問しました。

中標津町では30年以上前から住民主体の景観まちづくりが行われています。現在は「中標津町景観計画」に基づき、町民・活動団体・事業者・行政が協働で取り組んでいます。今回はその取り組みについて勉強してきましたので報告します。

北海道標津郡中標津町(根室管内)

人口:22,314人(10月末現在)

産業:酪農業、農業など(乳用牛:約39,000頭)

観光地:開陽台/養老牛温泉/武佐岳/中標津ミルクロード など



開陽台展望台からの景観

～中標津町が景観まちづくりで大切にしたいこと～

中標津町の景観まちづくり活動のきっかけは、平成3年に町を代表する観光地・開陽台でリゾート開発が持ち上がったことです。自然環境を守ろうとする住民運動が起こり、さらに同年「格子状防風林」を中心とした北開陽地区の景観が農村景観百選に指定されたことで、町民の景観に対する関心が高まりました。「開陽台」や「格子状防風林」といった中標津町を代表する景観は、地形・気候といった自然環境を活かしたもので、主要産業である酪農業やそれを支える人々の生活が織りなした景観でもあります。



格子状防風林



景観形成重点区域・開陽台にて



中標津ミルクロード

例えば、格子状防風林は平野部を吹き抜ける暴風雪からのちや暮らしを守るため、先人たちが作った財産です。住民が積極的にこの景観を守るとともに、その守る意味と歴史について子どもたち(次の世代)に伝えていくことが、地域を愛し、地域を守る「景観まちづくり」につながると考えています。

住民主体の景観まちづくりのベース【みんなの景観なかしべつプロジェクト】に聞きました!

「みんなの景観なかしべつプロジェクト(略称:みんなか)」は、2017(平成29)年の中標津町景観計画に基づき、町内における景観まちづくりの担い手となる母体組織として、景観まちづくりの検討内容や試行した活動を町民に情報発信し、さらなる担い手の発掘(仲間づくり)や町全体の景観まちづくりに対する意識の醸成を図ることを目的に設立した団体です。今回の視察ではみんなかのメンバーの方々を交えて、普段の活動や住民が参画する景観まちづくりについて意見交換を行いました。

Q 「みんなか」ではどのような活動をしているのでしょうか?

A 「みんなか」では以下の5つの部会に分かれて、それぞれの活動を行っています。

景観調査部会

写真等を用いて、中標津町の地形や開拓期の痕跡などから景観的特徴の調査を行います。



みんなかカボチャ畑(計根別地区)

「昭和初期の開拓景観」保存活用部会

開拓景観について意見交換を行ったり、団体や行政機関と協力して保存活用を進めたりしています。

なかしべつの色部会

まち歩きや勉強会などを通じて中標津町の景観にふさわしい色を検討しています。

かぼちゃランタン部会

計根別(けねべつ)地区を中心に学校や地域住民でカボチャを育て、ハロウィンのランタンで地域の飾りつけを行います。

景観学習部会

町内の小学生を対象に、中標津町の地形や歴史、生態系などから景観を学ぶ授業を実施しています。

Q 「みんなか」の活動は中標津町にとってどのような位置づけなのでしょう?

A 役場が積極的に関わることなく、あくまで住民たちによって活動を行っている団体です。景観まちづくり活動の広がりが期待されるため、そのような団体を支援する景観整備機構(中間支援団体)としての立ち位置についても考えていかなければならないと思います。

Q 住民参画の景観まちづくりを進めるうえで重要なことはどのような点だと思いますか?

A 地域課題を解決する際に、行政側が主導して対応するのではなく、行政側で考えていることと、住民の気持ちを相互に理解して調整してくれる中間支援の存在と、町民側でありながらも少し違う目線でアドバイスしてくれる人材が必要だと思います。

Q 町内で行われているまちづくり活動はどのようなものがありますか?

A 「みんなか」とは別の活動ですが、まちづくり活動を担う約60団体を集め、各ブースで活動内容を表示し、相互交流や街づくりについて語り合う「中標津まちづくり交流広場」という取り組みがあります。この活動から、互いの活動を「評価する(認めあう)」視点も大切であると感じました。

視察を通じて

景観まちづくりには住民の積極的な参加が不可欠であり、地道な活動が成果として実を結んでいることを学びました。俱知安でも町職員らによる「まち活」も引き続き行いつつ、住民の方々にも景観について考えてもらえる機会をつくっていきたいと思います。(景観まちづくり推進員・濱崎)